

2023年12月6日



— “住むまち近鉄 story” 八尾市の魅力発信 —

近鉄八尾駅をリニューアルしました！

近鉄では「もっとずっと、親しまれ、愛され」、住まいとして選ばれる沿線でありたい」という思いから、「住むまち近鉄 story」と題した沿線活性化施策に取り組んでいます。

この度、本施策の一環として、近鉄八尾駅を八尾市が持つ様々な魅力を伝えるデザインにリニューアルしました。

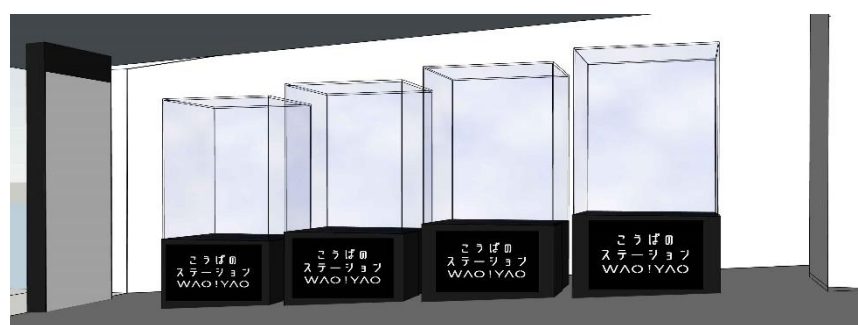
上り（大阪上本町方面）ホームには、同市を代表する盆踊り音頭の「河内音頭」をモチーフとしたデザインを、下り（伊勢中川方面）ホームの待合室には、ものづくり産業の魅力を伝える装飾をそれぞれ施し、西コンコースには、八尾市のものづくり産業や技術を紹介するギャラリー「こうばのステーション WAO! YAO」を設置しました。

近鉄は、八尾市の持つさまざまな魅力を駅から発信することで、沿線活性化に繋がっていきたいと考えています。

詳細は別紙のとおりです。



（西コンコース 階段下付近）



（西コンコース スロープ部）

ギャラリー「こうばのステーション WAO! YAO」イメージ

※本美装化は、観光庁の「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値事業」の補助金の交付を受け、八尾市と連携して実施するものです。

【近鉄八尾駅 リニューアルの概要】

1. 駅 名：大阪線 近鉄八尾駅
2. 所 在 地：大阪府八尾市北本町2丁目153-2
3. 施 工 箇 所：上下ホーム、西コンコース、中央コンコース
4. 施 工 期 間：2023年8月21日（月）～11月30日（木）
5. リニューアルの狙い：ものづくり産業、観光資源のPR

(1) 下りホーム待合室

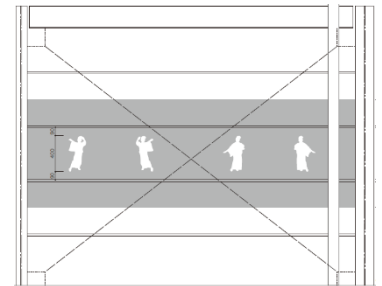
日本でも有数のものづくりのまち、八尾。
約3,000社が所在し、個性豊かなものづくりを続けるまちを表現するために、まちこうばで稼働している機械や歯車など工業をモチーフに壁をデザインしました。また金属加工業が盛んなまちでもあり“鉄”をモチーフにした看板、装飾を取り入れました。



下りホーム待合室

(2) 上りホーム壁面

大阪を代表する盆踊りである『河内音頭』をモチーフとしています。河内音頭の発祥の地である八尾市では、夏には、市内の様々な所で櫓が立ち、河内音頭が楽しまれ、八尾河内音頭まつりが盛大に開催されることが、恒例行事になっています。



上りホーム壁面

(3) ギャラリー「こうばのステーション WAO! YAO」

八尾市がモノづくりの技や魅力を未来に残すため、八尾の中小企業の技術を可視化し、社会課題を解決する商品や機械装置等、企業の活動を魅せるオブジェクトを12月6日から3カ月ごとにローテーションで展示する予定です。



*展示台内のイメージ図

(参考) 住むまち近鉄 story について

近鉄では、「地域やそこで暮らす人々との共生」をテーマに、「もっとずっと、親しまれ、愛され」、住まいとして選ばれる沿線でありたい」という思いから沿線それぞれの地域が持つ多様な魅力を発掘し、それを地域の方と一緒に広く届ける取り組みを2021年9月から「住むまち近鉄 story」として実施しています。



<住むまち近鉄 Story ホームページ>

(以 上)

【SDGs への貢献】

地域の文化・観光振興（8. 働きがいも経済成長も）
駅を拠点とした地域の活性化、魅力発信（11. 住み続けられるまちづくりを）
外部との連携（17. パートナーシップで目標を達成しよう）



近鉄グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。